

普及活動情勢報告（平成30年6月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

平成30年度の普及活動の取り組みについて ～高南地区農業改良普及推進協議会の開催～



アシストスーツの実演

6月1日、普及所が高南地区農業改良普及推進協議会を開催し、農業者代表、役場及びJAの関係機関職員など26名が出席しました。

協議会では、普及所が平成30年度に取り組む総合・個別課題の普及計画、GAPの取組及び作業負担軽減に向けてアシストスーツを紹介しました。委員からは、計画に対する助言やGAPについて質問がありました。

普及所は、今後も四万十町の農業の発展を目指し、生産者、関係機関と連携し普及活動に取り組んでいきます。

ショウガの生産安定に向けて ～JA四万十生姜部会通常総会の開催～



総会での講演の様子

6月12日、JA四万十生姜部会通常総会が、四万十農協会館で開催され、生産者23名が参加しました。

総会では、事業実績と収支決算、事業計画と収支予算等について審議され、承認されました。また、市場や園芸連担当者から市場動向や出荷販売状況報告、農業技術センター研究員による白星病等の病害防除の講演がありました。

普及所は、実証試験の進捗状況及び計画、農作業の負担軽減のためのアシストスーツについての情報提供を行いました。農家からは、ショウガの収穫作業で補助器具を使ってみたいとの声が聞かれました。

今後も、JA四万十と連携し、農家の栽培技術向上に向けて支援していきます。

活動を次の世代に引き継ぐために ～6次産業化セミナー実践コースの開催～



アドバイザーと意見交換

6月13日、道の駅大正でJA高知はた女性部直販所「であいの里」を対象に6次産業化セミナーを開催し、「であいの里」のメンバーや関係者10名が参加しました。

課題の確認や目標設定についての話し合いを行い、メンバーからは「25年間続けてきたが、若い人につなげるには安定した給料が必要」「収益アップに向けたメニュー作り等の勉強をしたい」などの考えが示されました。アドバイザーからは、「まずは経営分析から、今ある“強み”を伸ばしていきましょう」と助言を受け、取り組みの方向を確認しました。

普及所は、今後も6次産業化セミナーなどを活用しながら関係機関と連携し、6次産業化を推進していきます。

農地を守る担い手確保に向けて ～水稲新規栽培者『初歩の初歩』の開催～



ほ場で講習を受ける参加者

6月16日、農家ほ場でJA四万十と連携して、退職後等から水稲栽培を始められる新規栽培者を対象に講習会『初歩の初歩』を開催し、7名が参加しました。

普及所は、水稲の生育をはじめ、雑草や病害虫の種類や対策、今後の水管理、穂肥の散布時期などについて講習しました。

参加者からは「畦畔の草刈りの意味は？」「中干しの効果や時期はいつすれば良いのか？」などの初歩的な質問が出ました。

普及所は、今後も中山間の大切な担い手となる退職後等から農業を始められる栽培者に対し栽培や技術指導など支援していきます。

昔野菜を未来につなぐ ～昭和小学校で種取り体験～



「てみ」での選別

6月18日、四万十町立昭和小学校の3、4年生14人を対象に昔野菜（大根、蕪、高菜）の種取り体験を行いました。

普及所とJA、(株)十和おかみさん市、野菜ソムリエらが平成28年から行っている食育活動の一環で、種が入っている莢を棒でたたき、種を取り出す作業を行いました。最後に大道地区の生産者の協力を得て選別を行い、手箕（てみ）を使って手際よく種と莢を分ける作業に見入っていました。9月には当日収穫した種を使って栽培し、調理実習や販売体験に活用する予定です。

普及所は、今後も食育活動を通じて、昔野菜の大切さや食文化を子供たちに伝えていきます。

カメムシ適期防除で枝豆の品質向上を！ ～JA四万十枝豆研究会現地検討会の開催～



ほ場で病害対策を説明

6月19日、農家ほ場で、JA四万十枝豆研究会の出荷および現地検討会を開催し、生産者13名が参加しました。

昨年度は、栽培後期にカメムシの吸汁被害により、枝豆の品質が悪く、単価も下がったことから、普及所は、カメムシの種類や、枝豆の開花20日後頃に幼虫が増殖することなど、防除のポイントについて説明しました。

参加者からは「本年はまだ発生は少ないが、枝豆の周辺の雑草などにいるので、油断できない」などの声が聞かれました。

普及所は今後も、JA四万十枝豆研究会の収量および品質向上のために、栽培指導など支援していきます。

ニラ販売額がアップ！ ～ J A 四万十ニラ部会通常総会と販売高11億円達成記念大会～



総会の様子

6月14日、四万十農協会館で J A 四万十ニラ部会通常総会と販売高11億円達成記念大会が開催され生産者45名が参加しました。

総会では、事業実績・計画と収支決算・予算等について審議し承認されました。また、市場や園芸連担当者からの市場動向や出荷販売状況報告、(株)武蔵野種苗園によるニラの栽培と品種特性についての講演がありました。

普及所は、昨年度ニラ部会を対象に実施した労働調査の結果や、経営状況の報告、実証試験結果などについての情報提供を行いました。農家は、環境制御だけでなく出荷調製作業の省力化に向けた計量結束の共同化にも関心が高く、熱心な様子が見られました。

普及所は、JAと協力し産地の更なる発展に向け支援していきます。